

今冬の北陸フェンス運用容量（北陸受電方向） について

2018年11月22日
北陸電力株式会社

- 今秋発生した北陸エリア内の大容量電源停止以降、北陸受電方向の空容量が少なくなっており、今冬の重負荷期には北陸エリアの市場分断が懸念される。



- 北陸エリア内の大容量電源復旧時期が未定であることを踏まえ、広域機関業務規程第126条に基づき、市場分断発生を回避するため、**今冬の北陸フェンス運用容量の細分化を実施する。**

【業務規程】

(運用容量の設定)

第126条 (略) この際、**運用容量の算出断面を季節別、平休日別等に細分化することにより、市場分断の発生を回避することが見込まれるときは、その細分化を行う。**

(以下略)

広域機関 業務規程 (平成30年10月1日改定版) より抜粋

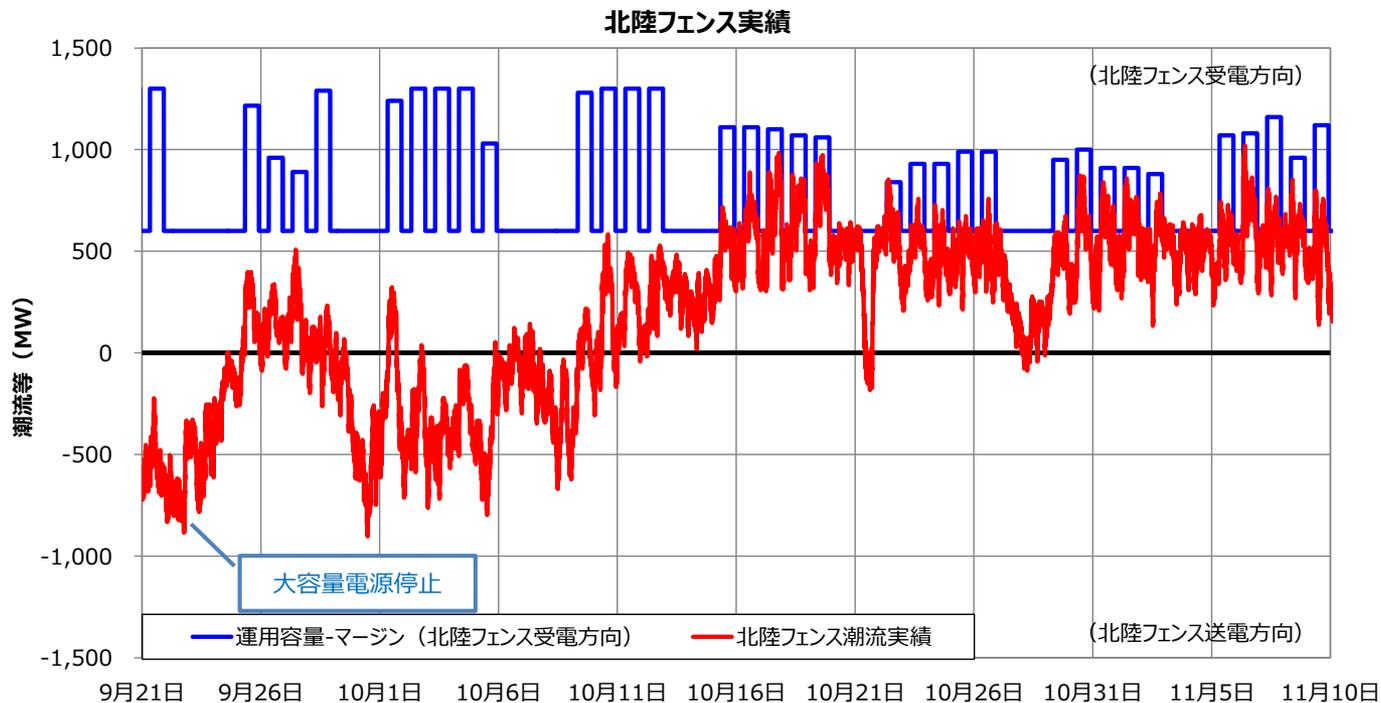
(単位：万kW)

平日：昼間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	130	130	130	130
中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	130	130	130	130

休日：昼間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	60	60	60	60
中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	60	60	60	60

平日：夜間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	60	60	60	60
中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	60	60	60	60

休日：夜間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	60	60	60	60
中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	60	60	60	60



- 現時点での北陸フェンス運用容量（北陸受電方向）は、連系線ルート故障発生時にも、負荷制限により、周波数面からの北陸単独系統の安定維持が、年間を通じ可能となる潮流限度値により決定。



- 北陸エリアの市場分断発生が懸念される12月以降においては、当該断面で期待できる負荷制限量を踏まえ、運用容量を以下のとおり細分化する。

（単位：万kW）

平日：昼間帯	12月	1月	2月	3月	休日：昼間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	160	160	160	160	北陸フェンス	90	90	90	90
中部北陸間連系設備	30	30	30	30	中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	160	160	160	160	北陸関西間連系線	90	90	90	90
平日：夜間帯	12月	1月	2月	3月	休日：夜間帯	12月	1月	2月	3月
北陸フェンス	90	90	90	90	北陸フェンス	90	90	90	90
中部北陸間連系設備	30	30	30	30	中部北陸間連系設備	30	30	30	30
北陸関西間連系線	90	90	90	90	北陸関西間連系線	90	90	90	90

以上